

2021(令和3)年度調査研究報告

2021(令和3)年度 修学旅行の実施状況並びに
「学びの集大成を図る修学旅行」の取組について

関東地区・東海地区・近畿地区

各修学旅行委員会 集計・比較・考察

調査時期:2021(令和3)年11月～2022(令和4)年2月

[本調査は上記の期間に実施したため、実際の実施状況とは異なる部分があります]

2022(令和4)年4月 発行

公益財団法人 全国修学旅行研究協会

目 次

I	調査研究のねらい	1
II	2021(令和3)年度の修学旅行について	2
1	調査について	2
	(1) 調査対象	
	(2) 調査時期	
	(3) 調査内容	
	(4) 調査・集計方法	
	(5) 回答状況	
2	実施概況	3
	(1) 実施時期	3
	(2) 実施方面	5
	(3) 生徒一人あたりの旅行費用平均額	8
	(4) 生徒一人あたりの体験活動費用平均額	9
	(5) 生徒一人あたりの交通費平均額	10
	(6) 生徒一人あたりの宿泊費用平均額	10
	(7) 生徒一人あたりの旅行費用平均額(方面別)	11
	(8) お小遣い平均額	11
	(9) 不参加生徒の有無	11
	(10) 不参加生徒理由別内訳	11
3	修学旅行実施に係る調査	12
	(1) 修学旅行実施に向けての検討・変更について	12
	(2) 実施、変更・中止・延期の最終決定の判断基準について	12
	(3) 教育委員会の管理規定について	12
	(4) キャンセル料の負担方法について	13
4	修学旅行を実施していくために	13
5	2020(令和2)年度の修学旅行について	14
	【参考】修学旅行の中止に伴い実施した代替行事の内容について(2020年、2021年)抜粋	16
III	まとめ	17

II 2021(令和3年)度の修学旅行について

1 調査について

(※本調査は、2021(令和3)年11月から、2022(令和4)年2月までに実施したため、それ以降の変更に
ついては含まれていない)

- (1)調査対象 以下の三地区の公立中学校を対象
 関東地区5県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉)
 東海地区3県(愛知・三重・岐阜)※愛知県は名古屋市除く
 近畿地区2府4県(滋賀・京都・奈良・大阪・兵庫・和歌山)
- (2)調査時期 2021(令和3)年11月～2022(令和4)年2月に調査実施
- (3)調査内容 ①修学旅行の実施時期・日数・旅行方面・旅行費用・不参加生徒数
 ②新型コロナウイルス感染症による、修学旅行への影響について
 ※調査時期以降の実施予定、または中止の学校を含む
- (4)調査・集計方法 ①全てオンラインで回答(関東・東海地区と近畿地区では回答システムが異なる)
 ②表中の「割合」については小数点第二位以下四捨五入しているため、表示上の割合の合計が100%とならないものもある

(5)回答状況

三地区	関東	東海	近畿	合計
調査校数	1,308	626	1,025	2,959
回答校数	1,308	626	1,025	2,959
回答率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
集計対象校数	1,308	626	1,025	2,959
実施(予定)校数	1,030	621	973	2,624

集計対象校数は回答校数から特別支援学校・調査時点で本年度実施予定の無い学校等を除いた数
 実施(予定)校数は調査時点で今年度実施(予定含む)した学校数

各地区の詳細

関東地区	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
調査校数	216	153	162	412	365	1,308
回答校数	216	153	162	412	365	1,308
回答率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※連合は1校とする

東海地区	愛知	三重	岐阜	合計
調査校数	298	150	178	626
回答校数	298	150	178	626
回答率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※愛知県は尾張・三河のみ

近畿地区	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	合計
調査校数	78	155	81	388	323	-	1,025
回答校数	78	155	81	388	323	-	1,025
回答率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	100.0%

2 実施概況

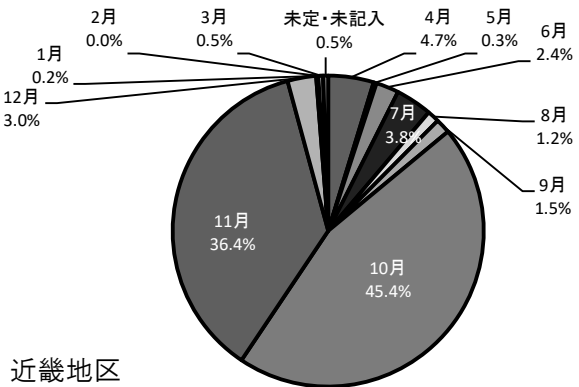
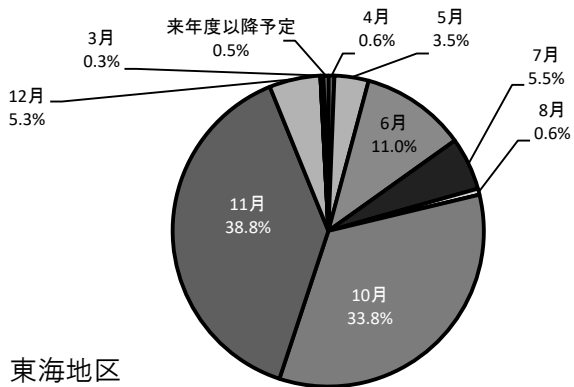
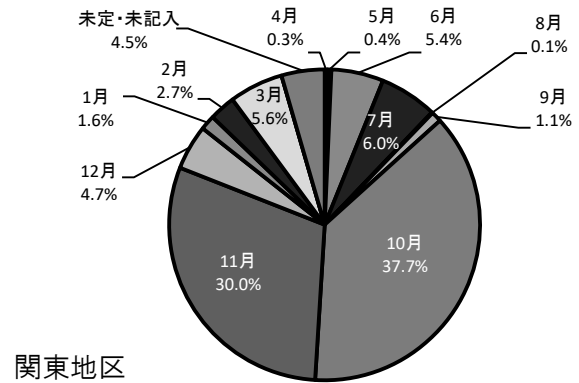
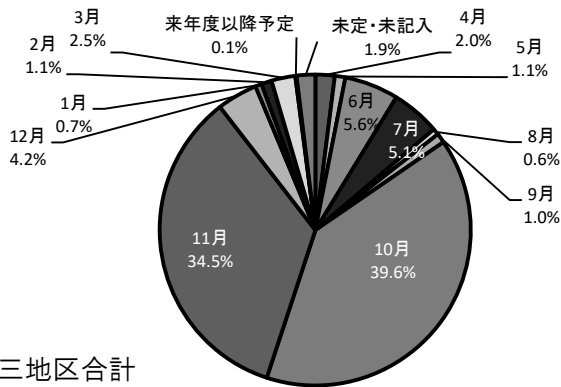
(1)実施時期(校数とその割合)

三地区	関東	東海	近畿	合計	割合
4月	3	4	46	53	2.0%
5月	4	22	3	29	1.1%
6月	56	68	23	147	5.6%
7月	62	34	37	133	5.1%
8月	1	4	12	17	0.6%
9月	11	0	15	26	1.0%
10月	388	210	442	1,040	39.6%
11月	309	241	354	904	34.5%
12月	48	33	29	110	4.2%
1月	16	0	2	18	0.7%
2月	28	0	0	28	1.1%
3月	58	2	5	65	2.5%
来年度以降予定	-	3	0	3	0.1%
中止・未記入	46	0	5	51	1.9%
合計校数	1,030	621	973	2,624	100.0%

関東地区	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
4月				2	1	3	0.3%
5月		1		1	2	4	0.4%
6月	2	28		11	15	56	5.4%
7月	11	10	1	25	15	62	6.0%
8月					1	1	0.1%
9月		1	1	4	5	11	1.1%
10月	59	49	110	33	137	388	37.7%
11月	93	59	20	69	68	309	30.0%
12月			1	38	9	48	4.7%
1月				15	1	16	1.6%
2月			1	24	3	28	2.7%
3月	1			27	30	58	5.6%
未定・未記入	9	3	2	14	18	46	4.5%
合計校数	175	151	136	263	305	1,030	100.0%

東海地区	愛知	三重	岐阜	合計	割合
4月	1	3		4	0.6%
5月	5	17		22	3.5%
6月	25	40	3	68	11.0%
7月	14	7	13	34	5.5%
8月	4			4	0.6%
9月				0	0.0%
10月	112	36	62	210	33.8%
11月	118	38	85	241	38.8%
12月	19	3	11	33	5.3%
1月				0	0.0%
2月				0	0.0%
3月		2		2	0.3%
来年度以降予定		3		3	0.5%
未定・未記入				0	0.0%
合計校数	298	149	174	621	100.0%

近畿地区	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	合計	割合
4月	7	5			34	-	46	4.7%
5月			1	1	1	-	3	0.3%
6月	5	6	2	4	6	-	23	2.4%
7月		9	1	26	1	-	37	3.8%
8月			8	4		-	12	1.2%
9月			7	6	2	-	15	1.5%
10月	26	73	36	187	120	-	442	45.4%
11月	13	50	22	127	142	-	354	36.4%
12月	1	4		13	11	-	29	3.0%
1月		2				-	2	0.2%
2月						-	0	0.0%
3月	4			1		-	5	0.5%
来年度以降予定						-	0	0.0%
未定・未記入	1	3	1			-	5	0.5%
合計校数	57	152	78	369	317		973	100.0%

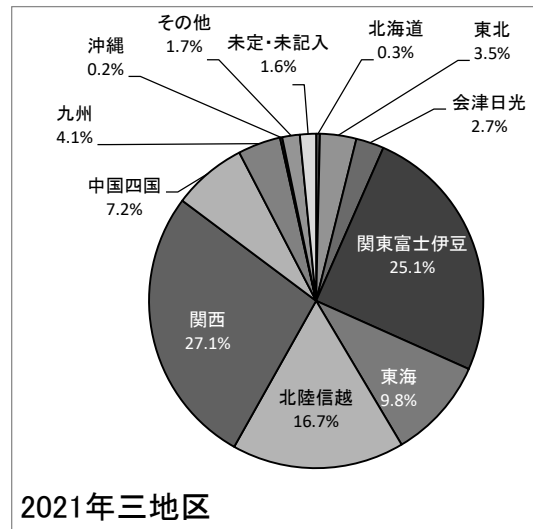


実施時期の状況

・新型コロナウイルス感染拡大の2年目、3地区とも春の出発は大きな影響をうけた。しかしながら、昨年度、4月から7月までに出発した学校数が4校だったのに対して、今年度は362校に増えた。理由としては、新型コロナウイルスに対する理解や安全対策が曲がりなりにも深まったこと、それによって市町村単位での一斉中止が減ったことや最終的に学校判断で実施ができる状況が増えたことが挙げられよう。また学校はもちろん、輸送機関や受入地域、旅行会社、旅館・ホテル等の地道な努力が功を奏している点も大きいだろう。その後、8月からは延期した学校が順次出発し、結果として関東地区で1,030校、東海地区が626校、近畿地区では973校と、合計2,629校が実施して、昨年度の1,919校を上回った。

(2)実施方面(複数回答)

三地区	関東	東海	近畿	合計	割合
北海道	11			11	0.3%
東北	110		1	111	3.5%
会津日光	85			85	2.7%
関東富士伊豆	314	441	33	788	25.1%
東海		308		308	9.8%
北陸信越	131	106	288	525	16.7%
関西	338	167	346	851	27.1%
中国四国	1	26	198	225	7.2%
九州	2		128	130	4.1%
沖縄			7	7	0.2%
その他	34		19	53	1.7%
未定・未記入	49			49	1.6%
合計校数	1,075	1,048	1,020	3,143	



※回答校数に対する割合

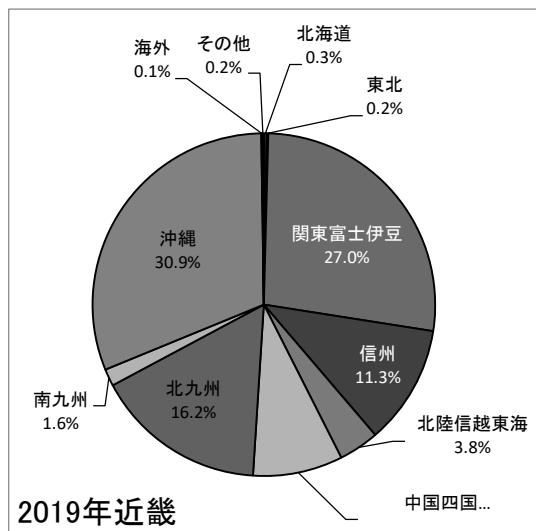
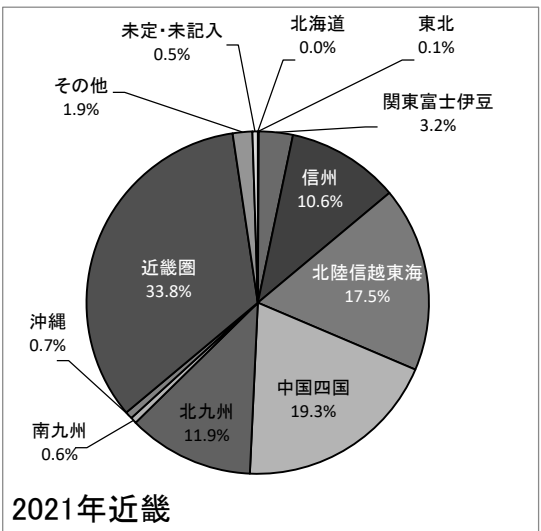
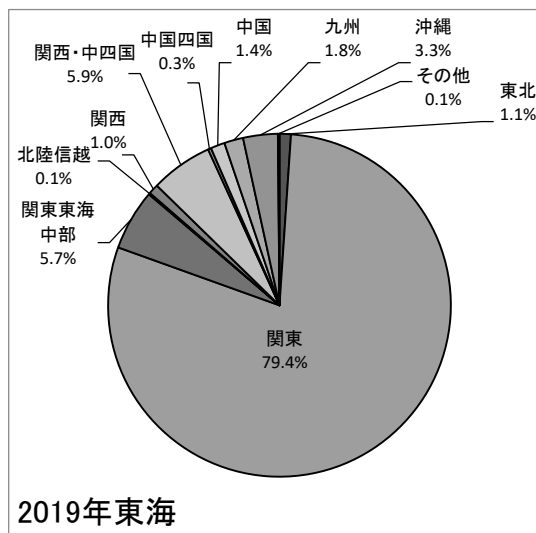
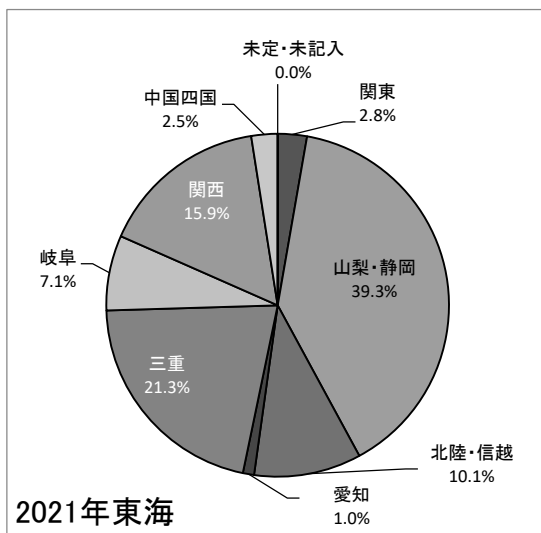
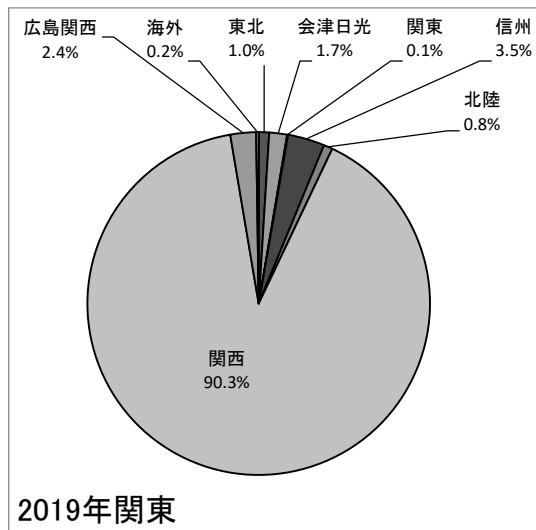
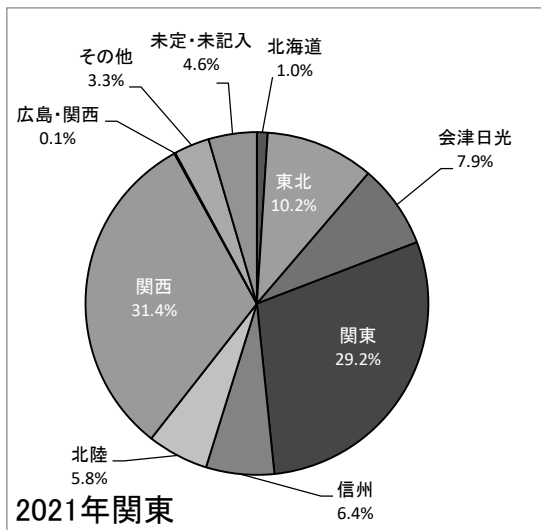
関東地区	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
北海道		9		2		11	1.1%
東北	36	59	5	4	6	110	10.7%
会津日光	38	9	14	1	23	85	8.3%
関東	48	8	61	13	184	314	30.5%
信州	12	13	18	3	23	69	6.7%
北陸	9	10	22	18	3	62	6.0%
関西	27	43	2	220	46	338	32.8%
広島・関西					1	1	0.1%
その他	6	3	19	2	6	36	3.5%
未定・未記入	9	4	2	15	19	49	4.8%
合計校数	185	158	143	278	311	1,075	

※回答校数に対する割合

東海地区	愛知	三重	岐阜	合計	割合
関東	26		3	29	4.7%
山梨・静岡	327	33	52	412	66.3%
北陸・信越	63	3	40	106	17.1%
愛知	4	1	6	11	1.8%
三重	63	104	56	223	35.9%
岐阜	18	2	54	74	11.9%
関西	78	60	29	167	26.9%
中国四国	5	13	8	26	4.2%
その他				0	0.0%
未定・未記入				0	0.0%
合計校数	584	216	248	1,048	

※回答校数に対する割合

近畿地区	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	合計	割合
北海道						-	0	0.0%
東北		1				-	1	0.1%
関東富士伊豆	6	11	2	14		-	33	3.4%
信州	9	38	3	56	3	-	109	11.2%
北陸信越東海	20	20	16	78	45	-	179	18.4%
中国四国	7	35	21	98	37	-	198	20.3%
北九州	3	27		30	62	-	122	12.5%
南九州				1	5	-	6	0.6%
沖縄		1	1	4	1	-	7	0.7%
近畿圏	28	18	36	100	164	-	346	35.6%
その他	4	1	1	7	6	-	19	2.0%
未定・未記入	1	3	1			-	5	0.5%
合計校数	78	155	81	388	323	-	1,025	



2021年度の円グラフは実施方面の複数回答を延校数として円グラフにしたものであり、実際の実施方面の割合とは異なる。右側のコロナ禍以前との方面の違いを視覚的に表現したものであり、グラフ中の数値はあくまでも参考値となる。

実施方面

【関東地区】

関西(広島含む)方面の変動

(31・令和元年) (令和2年) (令和3年)※延校数
1,221校(92.7%)⇒ 193校(46.5%)⇒ 338校(31.4%)

東北・会津日光・信州方面の変動

	(31・令和元年)	(令和2年)	(令和3年) ※延校数
東北	13校⇒	68校⇒	110校
会津日光	22校⇒	18校⇒	85校
信州	46校⇒	17校⇒	69校

・例年関東地区は9割以上が関西方面に行っているが、昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて実施校が64.8%に留まった。また、一時感染者が増えた関西方面を避けて東北・会津日光・信州方面への方面変更が増え、特に感染者が少なかった東北方面が増えた。今年度の全体の実施率は約87%(12月以降オミクロン株の拡大で中止になった学校もあるが)と昨年度より実施校が増えたが、やはり傾向として東北・会津日光・信州方面への方面変更が増えている。

【東海地区】

関東・中国四国・関西・沖縄方面の変動

	(31・令和元年)	(令和2年)	(令和3年) ※延校数
関東山梨静岡	612校⇒	169校⇒	441校
中国四国	12校⇒	31校⇒	26校
関西	50校⇒	88校⇒	167校
沖縄	24校⇒	0校⇒	0校

・東海地区も例年、関東方面(東京・千葉を中心)に8割以上の学校が行っているが、昨年度は感染者の数が多かった東京を避けて他の地域での実施が増えた。今年度もその傾向は変わらないが、関東が増えているのは、東京・千葉を避けて山梨や静岡が増えているためである。また、沖縄も感染拡大と遠距離等の理由から、昨年・今年度とも実施校は0となった。一方、県や教育委員会の方針や指導もあり県内や近隣地域での実施は今年度も増加し、東海3県内を目的地とした実施校は308校(昨年度は273校)に上った。

【近畿地区】

関東富士伊豆、中国四国、九州、沖縄方面の変動

	(31・令和元年)	(令和2年)	(令和3年)
関東富士伊豆	319校⇒	25校(2.5%)⇒	33校(3.2%)
中国四国	100校⇒	192校(19.4%)⇒	198校(19.4%)
九州	210校⇒	91校(9.2%)⇒	128校(12.5%)
沖縄	365校⇒	4校(0.4%)⇒	7校(0.7%)

・近畿地区においても、感染者数が多い地域を避けての実施となり、昨年度同様、今年度も結果的に関東と沖縄は激減した。近隣地域での実施は、昨年度よりは減ったものの、近畿圏内での実施校は346校(昨年度399校)となり、依然高い数字である。

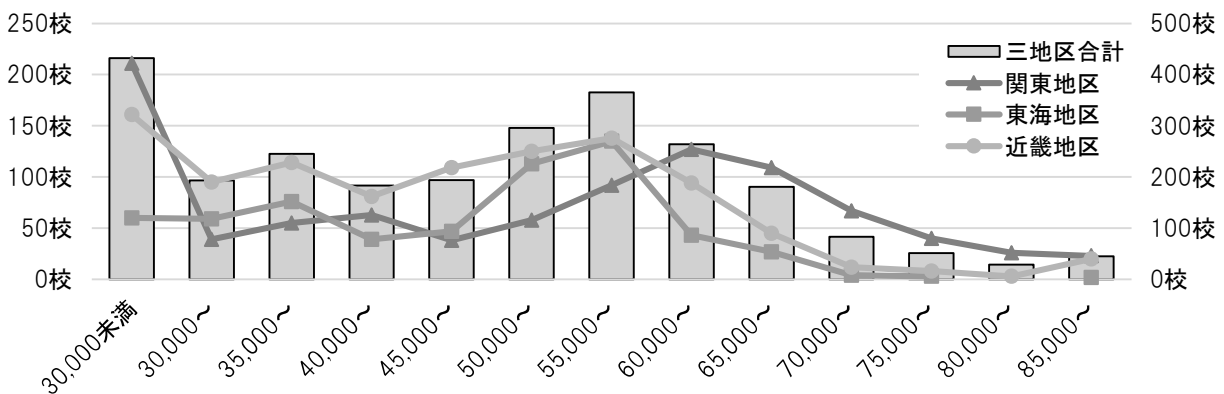
・今年度も三地区での実施方面は共通して、感染者数が多い地域を避けながら、新たな目的地を設定するなど、地域内や比較的近隣地域での実施も含めて、様々な努力と苦労が窺えるものであった。数字からは日程変更と併せて方面変更により、何とか実施して生徒を連れてきたいという学校の願いと市町村単位での一斉中止が減ったこともあり、実施した学校数は昨年度に比べて増えた。

その陰には、学校の努力は勿論、教育旅行を支える関係者の地道な取組もあったことは間違いない。

(3) 生徒一人あたりの旅行費用平均額(校数と割合)

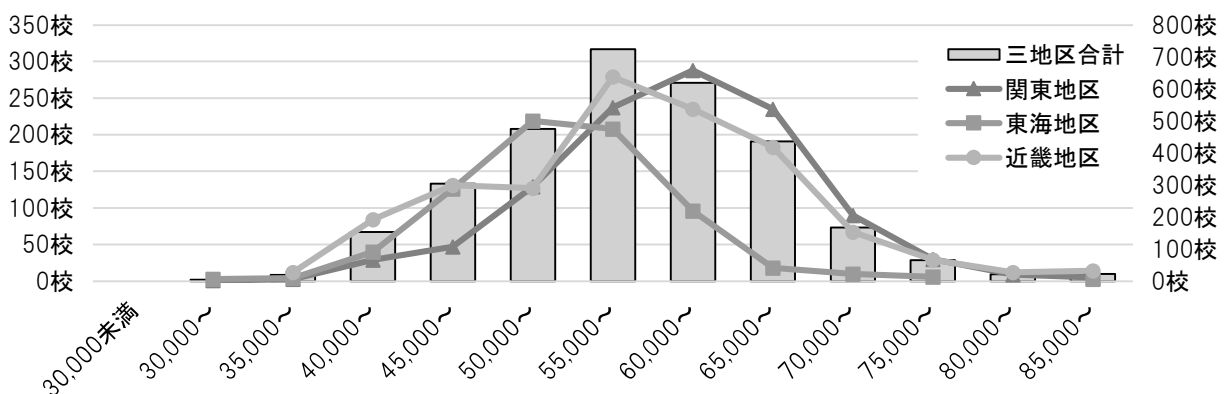
旅行費用(円)	関東	東海	近畿	合計	割合
30,000未満	211	60	149	420	16.0%
30,000～	39	59	94	192	7.3%
35,000～	55	76	110	241	9.2%
40,000～	63	39	80	182	6.9%
45,000～	38	47	102	187	7.1%
50,000～	58	113	121	292	11.1%
55,000～	92	135	126	353	13.5%
60,000～	127	43	91	261	9.9%
65,000～	109	27	44	180	6.9%
70,000～	67	4	11	82	3.1%
75,000～	40	3	6	49	1.9%
80,000～	26		2	28	1.1%
85,000～	23	2	19	44	1.7%
0または未記入	82	13	18	113	4.3%
合計校数	1,030	621	973	2,624	100.0%

2021年度 地区別旅行費用平均(一人あたり)



※合計校数は右目盛り

2019年度 地区別旅行費用平均(一人あたり)



生徒一人あたりの旅行費用平均額について

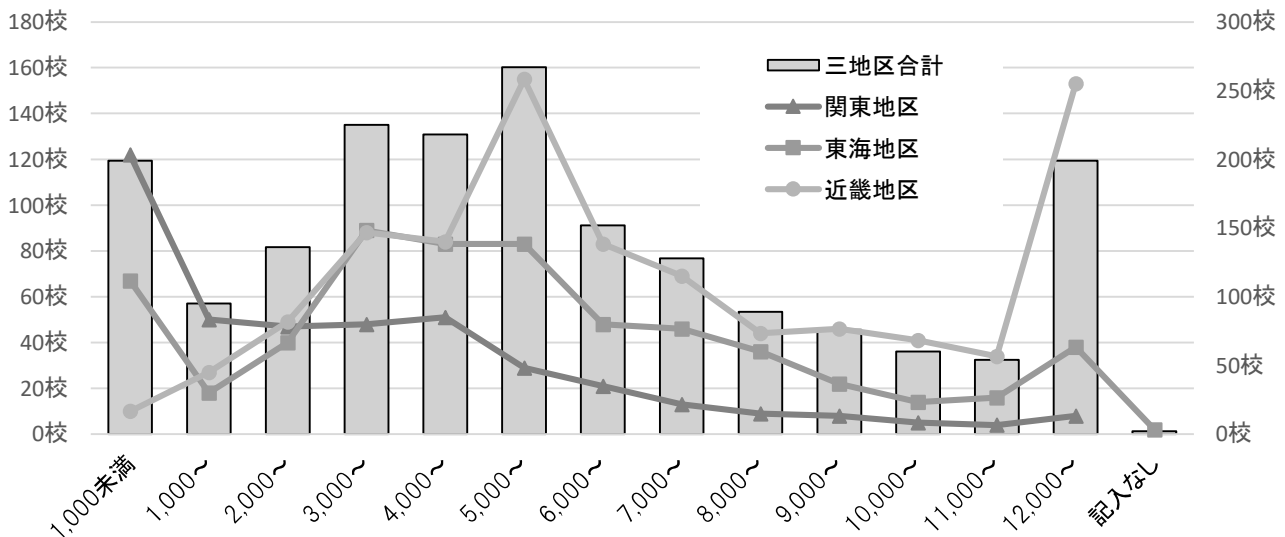
・昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で期間の短縮や方面変更(近隣地域での実施)により30,000円未満が最も多くなった。しかし、今年度は昨年度に比べて実施した学校が増えたこともあり、30,000円未満の割合は27.9%から16.9%へと減少した。また、例年であれば50,000円から70,000円程度の金額が最も多くなるが、今年度は、50,000円から65,000円程度の金額が最も多くなっており、金額の面からも昨年度よりはこれまでの状況に戻りつつある形となった。

(4) 生徒一人あたりの体験活動費用平均額(校数と割合)

体験活動費(円)	関東	東海	近畿	合計	割合
1,000未満	71	12	19	102	3.9%
1,000～	124	32	29	185	7.1%
2,000～	101	50	82	233	8.9%
3,000～	116	82	104	302	11.5%
4,000～	66	85	132	283	10.8%
5,000～	58	64	78	200	7.6%
6,000～	38	60	81	179	6.8%
7,000～	23	48	64	135	5.2%
8,000～	21	31	72	124	4.7%
9,000～	21	26	63	110	4.2%
10,000～	13	16	43	72	2.7%
11,000～	15	11	54	80	3.1%
12,000～	28	26	142	196	7.5%
0または未記入	335	74	10	419	16.0%
合計校数	1,030	617	973	2,620	100.0%

※近畿地区は入場料等も含む

地区別体験活動費用平均(一人あたり)



※合計校数は右目盛り

生徒一人あたりの体験活動費用平均額について

もともと三地区の生徒一人あたりの体験活動費は幅広く分布しており、殆ど集中する分布帯と言えるものはない。その傾向は基本的に昨年度・今年度とも変わらない。

ただ、1,000円未満割合が昨年度は11.6%であったのに対して、今年度は3.9%へと減少した。

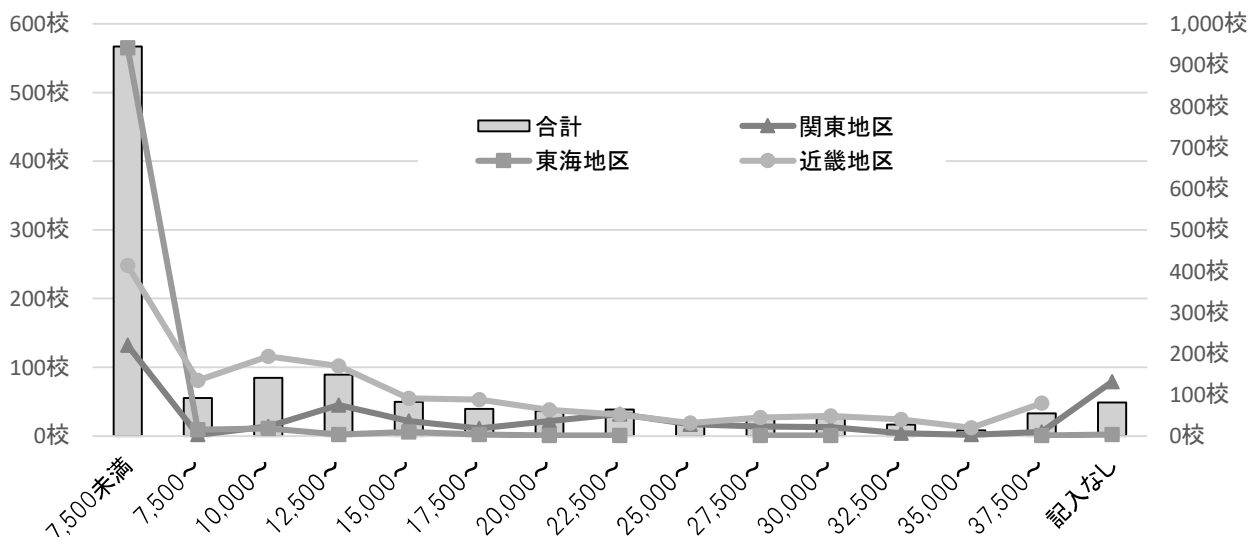
・6,000円以上の体験活動については、様々な活動(自然体験や社会体験)に民泊費用、入場料が含まれることがある。また、12,000円を超える割合も9.3%から7.5%に減少している。一因としては民泊が実施できないことの影響が考えられる。

(5) 生徒一人あたりの交通費平均額(校数と割合)

交通費(円)	関東	東海	近畿	合計	割合
7,500未満	216	226	137	579	22.1%
7,500～	12	8	146	166	6.3%
10,000～	16	2	174	192	7.3%
12,500～	51	2	122	175	6.7%
15,000～	22	5	84	111	4.2%
17,500～	29	2	62	93	3.5%
20,000～	41	1	46	88	3.4%
22,500～	63	1	35	99	3.8%
25,000～	36	1	38	75	2.9%
27,500～	35	0	37	72	2.7%
30,000～	23	0	24	47	1.8%
32,500～	6	0	17	23	0.9%
35,000～	3	0	6	9	0.3%
37,500～	13	0	40	53	2.0%
0または未記入	464	369	5	838	32.0%
合計	1,030	617	973	2,620	100.0%

※近畿地区はバス代も含む

地区別交通費平均(一人あたり)



※合計校数は右目盛り

生徒一人あたりの交通費平均額について

・昨年度は、コロナ禍の影響で期間の短縮や近隣地域での実施により7,500円未満の学校が約50%となった。また、GoToキャンペーンや受入地域の支援事業等により費用が軽減された学校もあった。今年度も同様にコロナ禍の影響は受けているものの、実施校が増えたため7,500円未満の学校が約22%と減少した。それでも、コロナ禍前の状況からはほど遠い感がある。

(6) 生徒一人あたりの宿泊費用平均額(校数と割合)

宿泊費用(円)	関東	東海	近畿	合計	割合
10,000未満	19	22	50	91	3.5%
10,000～	161	130	200	491	18.7%
15,000～	149	60	277	486	18.5%
20,000～	234	182	218	634	24.2%
25,000～	104	122	65	291	11.1%
30,000～	20	21	12	53	2.0%
35,000～	5	4	19	28	1.1%
宿泊・記入無し	338	76	132	546	20.8%
合計	1,030	617	973	2,620	100.0%

※1泊のみの学校も含む

(7) 生徒一人あたりの旅行費用平均額(方面別/円)

方面	関東	東海	近畿
北海道	80,576		
東北	61,625		74,000
会津日光	49,207		
関東富士伊豆	53,224	54,500	83,210
東海		41,395	
北陸信越	52,007	46,323	50,806
関西	66,621	49,394	38,788
中国四国	67,089	59,215	49,971
九州			64,886
沖縄			54,136
その他	37,458		50,301
未定・未記入	39,276		
平均額	49,258	44,102	48,957

(8) お小遣い平均額(生徒一人あたり上限額/円)

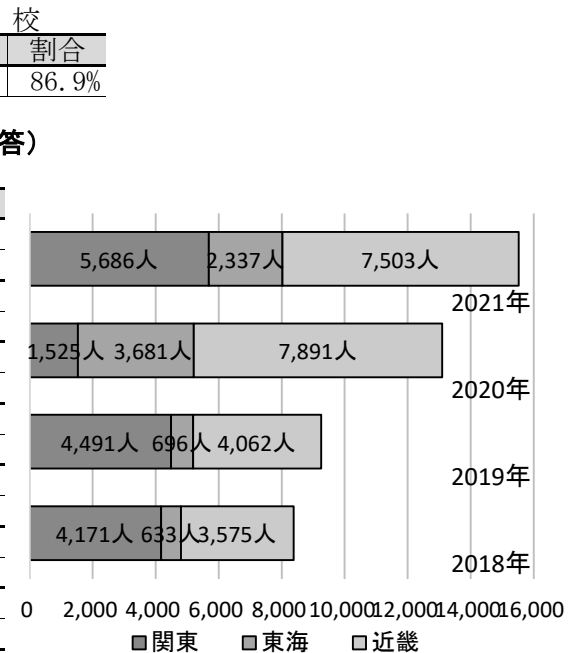
上限額平均	関東	東海	近畿
2018年	13,409	13,285	9,993
2019年	13,228	13,234	-
2020年	12,154	7,916	7,478
2021年	10,582	10,010	9,855
前年比	▲ 1,572	2,094	2,377

(9) 不参加生徒の有無

	関東	東海	近畿	合計	割合
いる(校数)	886	515	878	2,279	86.9%

(10) 不参加生徒理由別内訳(延校数と生徒数・複数回答)

	関東	東海	近畿	合計
合計	792	515	899	2,206
学校数	792	515	899	2,206
生徒数	5,686	2,337	7,503	15,526
経済的理由	150	50	34	234
学校数	150	50	34	234
生徒数	96	107	75	278
不登校	720	480	791	1,991
学校数	720	480	791	1,991
生徒数	3,434	2,461	4,501	10,396
疾病	268		231	499
学校数	268		231	499
生徒数	342		487	829
部活動等	12		18	30
学校数	12		18	30
生徒数	15		29	44
個人活動	40		71	111
学校数	40		71	111
生徒数	52		123	175
保護者判断	328	270	256	854
学校数	328	270	256	854
生徒数	1,239	1,556	910	3,705
その他	166		224	390
学校数	166		224	390
生徒数	403		787	1,190



※内訳不明の学校があるため、合計数は一致しない

経済的理由による不参加生徒数について

・経済的理由による不参加生徒数は三地区合計で278名で、昨年度の151名と比べると増えている。昨年度は修学旅行自体を中止した学校が多かったため、安易に比較はできないが、一昨年が289名であったことを考えると、今年度、まだ中止をしている学校があることから、不参加生徒数は増えていると見るのが正しいと思われる。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、昨年度から保護者判断として4,072名の生徒が参加を控えたが、今年度は3,705名と減少している。このことは、保護者の中にも確実に修学旅行の教育的価値について理解が高まっていると考えていだろう。

3 修学旅行実施に係る調査

(1) 修学旅行実施に向けての検討・変更について(複数回答)

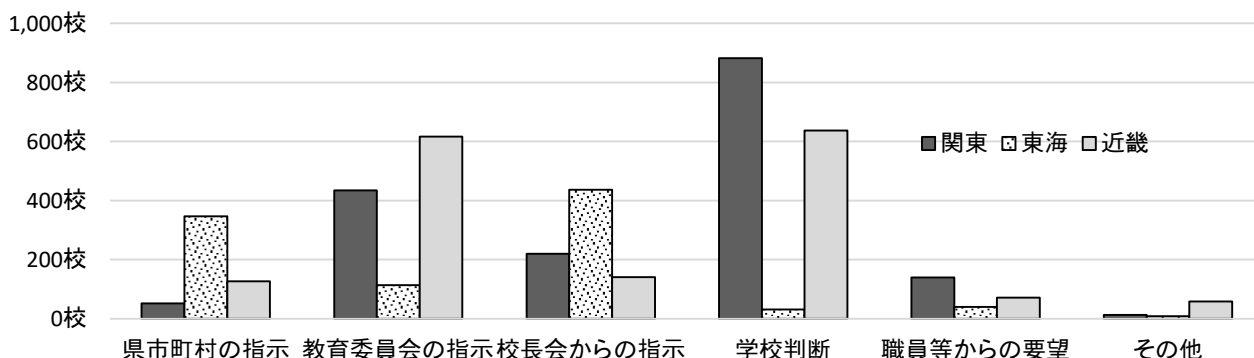
検討・変更内容	校			合計	割合
	関東	東海	近畿		
最終的に実施を中止	278	3	52	333	11.3%
当初の予定通り実施	81	20	80	181	6.1%
変更して実施	921	593	886	2,400	81.1%
検討中	-	10	2	12	0.4%

修学旅行実施に向けての検討・変更について

・最終的に実施を中止した学校が、昨年度は983校(P-14の2020年度確定数字)に上ったのに対して、今年度は年明けのオミクロン株の第6波感染拡大のため変更・中止の誤差があるものの、調査時点で333校に止まったことは学校の決断、各教育委員会の判断、そして、教育旅行に関わる全ての関係機関・団体等の努力に他ならない。特に「変更して実施」の校数が2,400校に上っているのは、そのことの証でもあるといえる。

(2) 実施、変更・中止・延期の最終決定の判断基準について(複数回答)

	校			合計	割合
	関東	東海	近畿		
県市町村の指示	52	347	127	526	17.8%
教育委員会からの指示	434	113	616	1,163	39.3%
校長会からの指示	220	436	141	797	26.9%
学校判断	882	31	637	1,550	52.4%
職員・保護者からの要望	139	40	71	250	8.4%
その他	13	8	58	79	2.7%



実施、変更・中止・延期の最終決定の判断基準について

・昨年度(P-14の2020年度確定数字)のデータを見ても分かるように、三地区の中では関東地区が「最終的に実施を中止」した学校の割合が圧倒的に多かった。その要因として、感染者が多かった東京に近かったことも挙げられる。しかしながら、今年度、その数が減少しているのは、表にある通り、「県市町村からの指示」(昨年度:100校 → 今年度:52校)、「教育委員会からの指示」(昨年度:788校 → 今年度:434校)が減少し、「学校判断」(昨年度:567校 → 今年度:882校)が増えたことも大きな要因である。最終判断に到るまでの経緯には多くの葛藤や悩みがあったと思われるが、前年度の経験や教訓を活かしながら取り組む姿が目に見えようである。

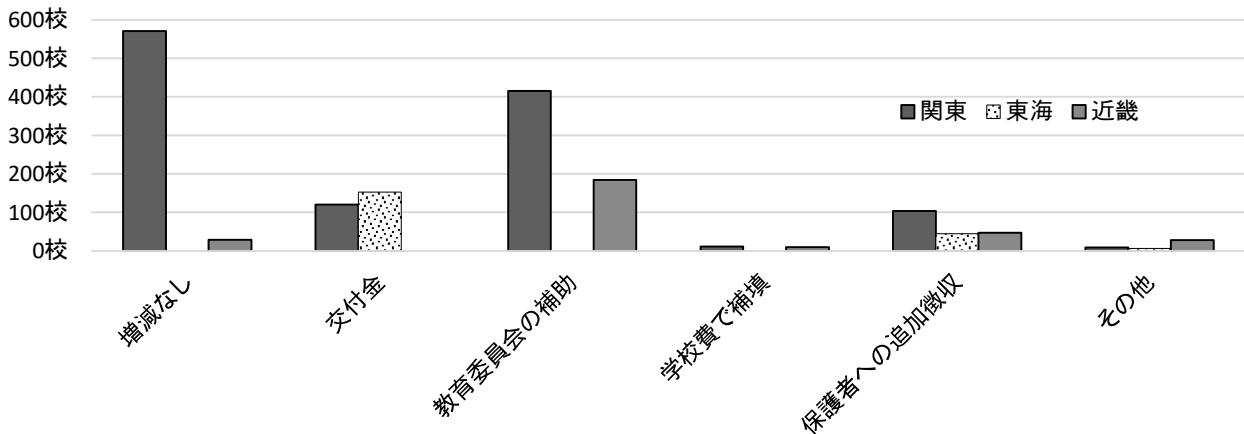
(3) 教育委員会の管理規定について

	校			合計
	関東	東海	近畿	
ある	328	-	-	328

※関東地区のみ調査

(4) キャンセル料の負担方法について(複数回答)

	校			合計	割合
	関東	東海	近畿		
増減なし	571	-	29	600	20.3%
交付金	120	-	-	273	9.2%
教育委員会の補助	415	153	184	599	20.2%
学校費で補填	11	-	10	21	0.7%
保護者への追加徴収	104	45	47	196	6.6%
その他	9	6	28	43	1.5%



キャンセル料の負担方法について

・いずれの地区も主には地方創生臨時交付金や、市町村教育委員会の補助(この中にも上記交付金を活用しているものも含まれると思われる)を活用していることがわかる。地方創生臨時交付金は非常に有用ではあるものの、手続きが若干煩雑なことから、最終的には首長の判断に因るところがあり市町村による対応の違いが生じてしまう。重要な教育活動である修学旅行を支援する方法としては、検討が必要である。

4 修学旅行を実施していくために(複数回答)

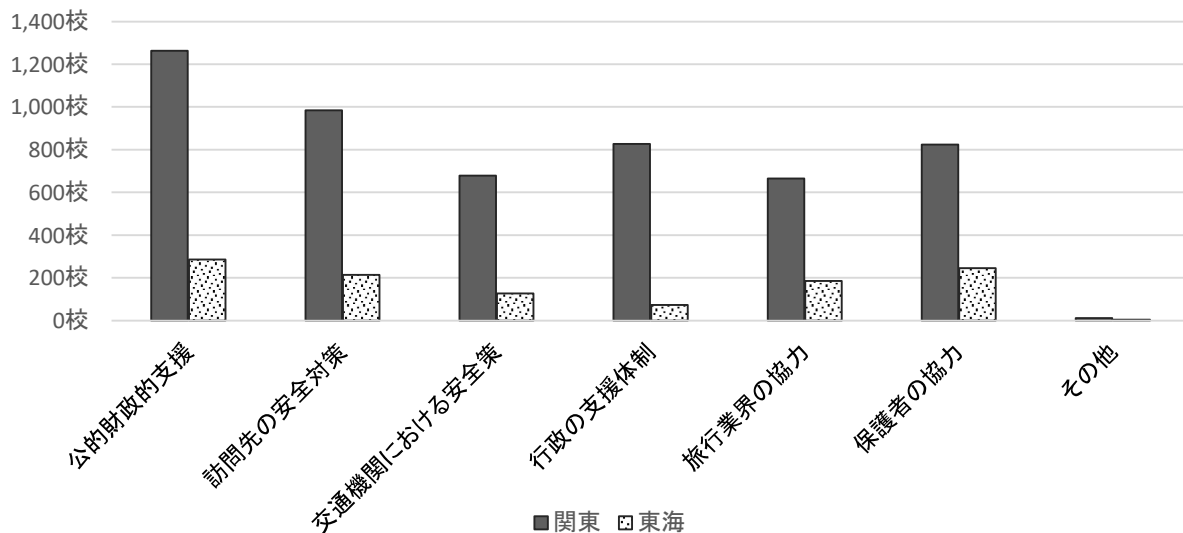
	校			合計	割合
	関東	東海	近畿		
公的財政的支援	1,262	285	-	1,547	79.5%
訪問先の安全対策	983	213	-	1,196	61.5%
交通機関における安全策	678	127	-	805	41.4%
行政の支援体制	827	73	-	900	46.3%
旅行業界の協力	665	186	-	851	43.8%
保護者の協力	824	245	-	1,069	55.0%
その他	12	4	-	16	0.8%

※近畿地区未調査

修学旅行を実施していくために

・昨年3月以来、文部科学省では修学旅行の教育的価値を鑑み、コロナ禍でも中止ではなく、延期での実施を考慮する旨の文書を適宜発出してきた。その主旨については、学校は十分理解していると言える。その上で、修学旅行を実際に実施していくためには、「安全の確保」が不可欠であるとともに、現実的な財政的支援と保護者の理解・協力が欠かせないと、全ての学校が強く感じている結果が昨年度・今年度の調査から読み取れる。

4. 修学旅行を実施していくために(複数回答)

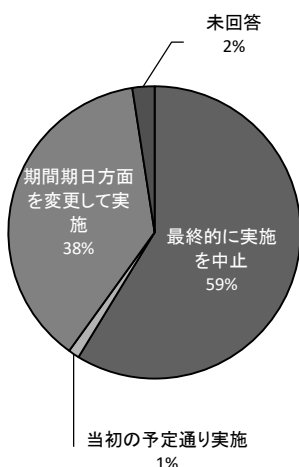


5 2020(令和2)年度の修学旅行について

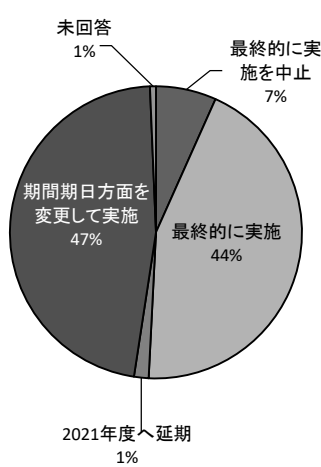
関東地区	校					合計
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	
最終的に実施を中止	116	34	89	319	210	768
当初の予定通り実施	1	1		12	2	16
期間期日方面を変更して実施	91	114	71	73	143	492
未回答	8	4	2	8	10	32

東海地区	校			合計
	愛知	三重	岐阜	
最終的に実施を中止	1	2	39	42
最終的に実施	-	138	138	276
2021年度へ延期	-	10		10
期間期日方面を変更して実施	294	-	-	294
未回答	3		1	4

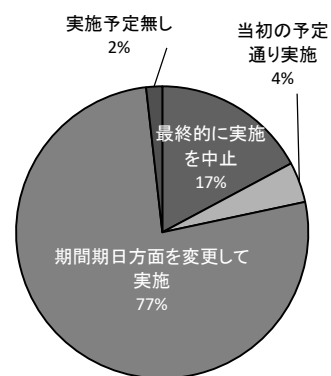
近畿地区	校						合計
	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	
最終的に実施を中止	37	25	18	69	27	-	176
当初の予定通り実施	2	9	5	24	6	-	46
期間期日方面を変更して実施	39	117	54	290	285	-	785
実施予定無し		4	4	5	5	-	18



2020年関東



2020年東海



2020年近畿

5. 2020(令和2)年度の修学旅行について

・ 前年度2020(令和2)年度の調査は11月から1月上旬にかけて実施したため、年明けの第3波の感染拡大により、1月から3月に実施を予定していた学校の殆どが中止を余儀なくされ、データに変更が生じてしまった。そのため、今年度、改めて正確なデータを得るために再調査を行った。

結果的にはコロナ禍の影響で、変更・中止がいかに多かったかが、改めて浮き彫りとなった。最終的に中止の校数が関東地区では他の地区に比べ多くなっているが、これは東京を中心とした首都圏での感染者が圧倒的に増加していたことに起因している。また、修学旅行の定義の違いも一つの理由である。

関東地区では修学旅行を、泊を伴うものとして定義しているところが多いが、東海地区や近畿地区では日帰りも修学旅行として認めているところが多い。結果として、関東地区では修学旅行をいったん中止して、代替措置として日帰り旅行を実施したところが多かったと言える。「期間期日方面を変更して実施」の校数がいずれの地区も多いことから、学校がいかにして逡巡し、努力しながら生徒たちを修学旅行に連れて行くようとしていたかが伝わってくる数字である。

修学旅行の中止に伴い実施した代替行事の内容について（2020年、2021年）抜粋

旅行・遠足

3学年を2つに分けて日帰り遠足を実施
つくば市、笠間市へ遠足
ひたちなか海浜公園、大洗町内リアル宝探し
マザー牧場・大房岬自然の家
むさしの村日帰り見学
井頭公園遠足
遠足 お楽しみ会
横浜八景島に日帰り「思い出旅行」
学年を2日に分けて県内日帰り旅行 テーブルマナー
鎌倉遠足(貸切バス)
鴨川シーワールド、バス利用
近隣へ日帰り遠足
県内バス旅行(大洗水族館・ひたち海浜公園)
県内近隣施設へのバス旅行と学年行事実施
国営ひたちなか海浜公園への遠足
山梨県 富士急ハイランドへ日帰り旅行を実施
市内公園散策
川越方面・日帰り
草津方面日帰り
東武動物公園 日帰り
那須ハイランドパーク1日貸し切り
日帰りディズニーランド
日帰りでクラス別にバス旅行(栃木・福島方面)
日帰りでむさしの村
日帰りでよみうりランド
日帰りで茨城県つくば市方面へバス旅行
日帰りで栃木県那須方面へのバス旅行
日帰りで福島方面へのバス旅行
日帰りバス利用で県内施設での観光・体験
日光・鬼怒川方面への日帰り旅行
日立市内観光(遠足)
福島方面 あぶくま洞・アクアマリン福島
遊園地を複数校で貸し切り、日帰りで遠足を実施
入間ラウンド1・東武動物公園
任意参加形式の日帰り学年旅行を計画・実施
八ッ場ダム・草津温泉・浅間鬼押出し園
八景島日帰り
富士急ハイランド
歩く会
長瀬方面で長瀬ライン下りと宝登山ハイキング
富士登山

校外学習

学級別校外活動
近隣の海浜公園で校外学習
施設見学とボーリング
村内に1泊し、2日間県内県学
地域のウォークラリー
東京方面への校外学習
栃木方面に校外学習
那須ハイランドパークでキャリア教育研修
日帰りで熊谷さくら運動公園にて校外学習
日帰り福島県会津方面班別行動
福島県ブリティッシュヒルズでの語学研修
予科練平和記念館見学、被爆体験朗読会
福島ブリティッシュヒルズ 那須ハイランドパーク
ツインリンクもてぎで校外学習
フォト校外学習(学校近辺の見どころ・危険箇所を調べ、まとめる)
校外学習 石炭・化石館、アクアマリンふくしま見学
校外学習(ラフティング)とテーブルマナー
周遊チャーター機を活用した航空教育プログラムを実施(空飛ぶ学び舎)
市民体育館を午前中借り切って、生徒が企画・準備したレクリエーション大会
ディズニーアカデミー
茨城空港を利用して日帰りUSJ校外学習

体験活動

アスレチック体験とコース料理のマナー講座
いちご狩り
イバライド
カーリング体験、食事マナー体験等
スキー実習
スケート
たくみの里、原田農園
テーブルマナー教室
テーマパーク・テーブルマナー体験
ミュージカルの観劇
映画鑑賞
学びの講演会
学校にて座禅・扇子づくり
京都の食べ物、お菓子などを取り寄せて学校で食べた。
京都の扇子や清水焼の絵付け体験
県内の梨狩り等、日帰りの活動
元気プラザ小川で体験学習
市負担で市内散策及び市内ホテルにてテーブルマナー教室
沼田方面でリンゴ狩り等
震災講話・民芸品制作
日帰りでスケート体験(県施設利用)
木更津クルックフィールズで農業体験
複数の文化活動団体を招いた体験活動
富岡製糸場見学、月夜野びーどろばーくグラス作り体験

校内行事

VR修学旅行
シトラスリボン作成、校内レクレーション
バーチャル修学旅行と体験学習を校内で実施
よしもの芸人さんによる演芸
リモート修学旅行を校内で実施(旅行者による)
ワンダースクールフェスティバル
運動会を実施
学校で一日ゲームやスポーツをした
学校で集会を実施(旅行行事ではない)
学校内に宿泊
学年レクリエーション
学年球技大会
学年行事(キャンプファイヤー)の実施
学年文化祭を実施
京都・奈良バーチャル体験
校庭での花火鑑賞
校内レクリエーション(クラス対抗)
自校校庭で熱気球体験
生徒の発案による学年レク
体育祭
著名人を招いての講演会やレク活動等を実施
夢の時間割(学校内でのレクレーション)

2021(令和3)年度研究調査報告

2021(令和3)年度 修学旅行の実施状況並びに
「学びの集大成を図る修学旅行」の取組について

2022(令和4)年4月
公益財団法人 全国修学旅行研究協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-6-8
Tel : 03-5275-6651 Fax : 03-5275-6653
E-mai shuryo@h2.dion.ne.jp
URL <http://shugakuryoko.com>